

希望の明日へ

下

*Toward a Brilliant Day
Full of Hope*

•
*Selections from
SGI President Ikeda's
Speeches*



池田名誉会長スピーチ珠玉集

聖教ワイド文庫

希望の明日へ^{あす}
[下]

池田名誉会長スピーチ珠玉集

希望の明日へ [下]

池田名誉会長スピーチ珠玉集

発行日 二〇〇八年三月十六日

第五刷 二〇一〇年十二月二十日

著者 池田 大作

発行者 松岡 資

発行所 聖教新聞社

〒一六〇・八〇七〇 東京都新宿区信濃町一八
電話〇三・三三三・五三六一一（大代表）

印刷・製本 大日本印刷株式会社

*

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

©2008 D.Ikeda. Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります

ISBN978-4-412-01384-1

池田大作（いけだ・だいさく）

昭和3年（1928年）、東京生まれ。創価学会名誉会長。創価学会インタナショナル（SGI）会長。創価大学、アメリカ創価大学、創価学園、民主音楽協会、東京富士美術館、東洋哲学研究所、戸田記念国際平和研究所などを創立。世界各國の識者と知性の対話を重ね、平和、文化、教育運動を推進。モスクワ大学、グラスゴー大学、デンバー大学、北京大学など、世界の大学・学術機関から名誉博士、名誉教授。国連平和賞をはじめ、桂冠詩人、世界民衆詩人の称号、世界桂冠詩人賞、世界の各都市から名誉市民の称号など多数受賞。

主な著書に『人間革命』（全12巻）、『新・人間革命』（現22巻）、『私の世界交友録』など。対談集も『二十一世紀への対話』（A・トインビー）、『人間革命と人間の条件』（A・マルロー）、『二十世紀の精神の教訓』（M・ゴルバチョフ）、『地球対談 輝く女性の世紀へ』（H・ヘンダーソン）など多数。

目次

第二部 人生の指標

「第一章」人生

希望 10

友情 18

幸福・福運 26

健康 37

教養・礼儀 46

人間関係 51

地位・名誉 57

生と死 62

歓喜・喜び 72

苦難 77

年配者 88

「第二章」生活・家庭

仕事 94

女性の生き方 97

結婚	106
夫婦	108
父親・母親	115
家族	120
子育て・しつけ	128
家庭	136
生活	139
第三部 社会の英知	
〔第一章〕思想・宗教	
宗教と人間	144

慈悲の精神	154
生命の尊厳	158
人権	164
人間・平等主義	168
法華経（大乘仏教）	178
〔第二章〕教育・文化	
文化	186
教育	191
学問	203
史観	206

科学・医学……………209

詩……………214

音楽……………218

芸術・美術……………221

読書……………227

〔第三章〕平和への道標

戦争……………234

平和……………237

核の廃絶……………243

国家の論理と人間の論理……………245

国連支援……………248

人間外交……………252

環境・公害・自然保護……………256

政治・経済……………258

権威・権力……………262

生命の世紀……………268

参考資料（上・中巻の収録内容）……………274

希望の明日へ^{あす}
[下]

池田名誉会長スピーチ珠玉集

目次

第二部 人生の指標

「第一章」人生

健康	37
幸福・福運	26
友情	18
希望	10

「第二章」生活・家庭

教養・礼儀	46
人間関係	51
地位・名誉	57
生と死	62
歓喜・喜び	72
苦難	77
年配者	88
仕事	94
女性の生き方	97

結婚	106
夫婦	108
父親・母親	115
家族	120
子育て・しつけ	128
家庭	136
生活	139
第三部 社会の英知	
〔第一章〕思想・宗教	
宗教と人間	144

慈悲の精神	154
生命の尊厳	158
人権	164
人間・平等主義	168
法華経（大乘仏教）	178
〔第二章〕教育・文化	
文化	186
教育	191
学問	203
史観	206

科学・医学……………209

詩……………214

音楽……………218

芸術・美術……………221

読書……………227

〔第三章〕平和への道標

戦争……………234

平和……………237

核の廃絶……………243

国家の論理と人間の論理……………245

国連支援……………248

人間外交……………252

環境・公害・自然保護……………256

政治・経済……………258

権威・権力……………262

生命の世紀……………268

参考資料（上・中巻の収録内容）……………274

一、本書は、単行本『希望の明日へ——池田名誉会長スピーチ珠玉集』の中から、第二部の第一章の「希望」から第三部の第三章までを[下]として収録しました。巻末に、参考資料として上・中巻の収録内容を収めました。

一、御書の引用については、『新編 日蓮大聖人御書全集』（創価学会版）により、（御書○○ジペー）と表記しました。

一、法華經の引用は、『妙法蓮華經並開結』（創価学会版）により、（法華經○○ジペー）と表記しました。

一、仏教用語の読み方は、「仏教哲学大辞典」（第三版）を参考にしました。

一、本文中、各項目の文末に表記した年月日については、スピーチの年月日を記しました。また、雑誌については、書名および掲載年月号を記しました。

第二部 人生の指標

第一章 人生

希望

苦難くなんのなかにも希望はある。いな苦難きたに鍛えられてこそ、初めて希望はその真実の強さを發揮はつきする。〴〵鍛え〴〵なき希望は、単なる夢想むそうにすぎない。大難だいなんの嵐あらしにも、私はひとりすべてを耐えた、ことごとく打ち勝った。私は、苦難を喜よろこんでいた――。望のぞんでいたといつてよい。それは何より、これによって若き後継こうけいの青年たちの信心が鍛えられ、成長することを期待したからである。そして、風雨ふううをしのぎ、時をかせぎながら、一つまた一つ、

青年の心に韌つよき不屈ふくつの〴〵希望をを育はぐんでいった。その當々えいえいたる陰かげの作業さぎように氣づいた人は少ない。世間の浅薄せんぱくな眼にも、まったく映うつらなかったかもしれない。しかし、学会の庭、広布の庭で育そだった、青春の〴〵希望つばさの翼はは、やがて必ずかならず、二十一世紀の大空を堂々と飛翔ひしやうしていつてくれることを確信している。

*

——昭和63・1・9

青春とは、希望の異名いみょうでもある。ゆえに、青年だけが、青春なのではない。四十代であれ、五十代、六十代であれ、未来への希望があるかぎり、永遠えいえんの青春

にあるといつてよい。

——昭63・1・15

*

ブラジルには「希望は、一番最後に死ぬ」という言葉がある。「希望は最後まで消えない」とも言い換えることができる。つまり、いかなる絶体絶命のピンチにあつても、最後の最後まで希望はある。断じてあきらめてはならない。胸中にある希望は無量である。それを失わない人は強い。何があつても、希望の火を燃やし続けてこそ、道は開けてくる。青年は、一人ももれなく、その栄光と勝利の人生を歩んでいただきたい。

——昭63・5・5

*

若い時の夢、若い時の希望を手放すな、とは戸田先生の指針である。この両者を手放しては、人間としてはなんの意味もない。どこまでも夢と希望をもち続け、そのすべてを實現していく——ここに人生と信仰の、すばらしき、ロマンがあるからである。

——昭63・9・17

*

人間の生命力を強めるもの。それは希望であり確信である。そして、励ましとともに、具体的な目標をもてるよう配慮していくことが、どれほど大きな力を引